

情報公開文書

研究の名称	胆管挿管困難例に対するEUSガイド下ランデブー法の有用性に関する検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院第三内科安田一朗
研究の概要	【研究対象者】 2019年4月1日から2029年3月31日の間に未処置乳頭に対して ERCP を行った症例のうち、EUS ガイド下ランデブー法を施行した症例 【研究の目的・意義】 従来、ERCP 時の胆管挿管困難例に対するサルベージテクニックとして膵管ガイドワイヤー法（P-GW 法）やプレカット法が広く用いられてきました。しかしながら、胆管挿管困難である症例や様々な要因によりこうした方法が困難な症例に遭遇し、以前は内視鏡的アプローチ困難と考え、経皮的治療や外科的加療が行われることが多かったですが、近年ではコンベックス型超音波内視鏡スコープを用いた EUS 下での処置が普及しており、EUS 下 rendezvous 法（EUS-RV）の有用性が報告されています。 当院では、胆管挿管困難例の次善の策として EUS-RV 法を積極的に行っています。そこで当施設で行ってきた EUS-RV の手技内容、治療成績を詳細に分析することで、EUS-RV の有用性を評価するとともに、より侵襲が低く、有効性の高い方法を検討することができると考えています。 【研究の方法】 後ろ向き観察研究 【研究期間】 実施許可日～2029年9月30日 【研究結果の公表の方法】 この研究の解析結果は、専門学会への発表、論文化を通し公表されます。
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	本研究で用いるデータの管理は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。また対応表は研究責任者並びに分担者が保管・管理します。また、本研究で使用するデータ（病理結果、治療方針、最終診断）はカルテ上に存在する検査画像やレポート、診療記録等を使用します。他機関への情報提供はありません。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院長 山本善裕
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学学術研究部医学系内科学（第三）教授 安田一朗
研究対象者、親族等関	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関す

係者からの相談等への 対応窓口	る相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話：076-434-7301 FAX：076-434-5027 E-mail：entntsk@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名：富山大学学術研究部医学系内科学（第三） 病院特別助教 圓谷俊貴
----------------------------	---